

2022年日本建築学会賞（業績）

選考経過

2022年業績部門への推薦または応募は18件であった。2021年10月1日に第1回の業績部会を開催し、「日本建築学会表彰規程」、「日本建築学会賞選考委員会運営規程」ならびに「2022年日本建築学会賞候補業績募集要領」の内容を確認した上で、部会の運営方法や審査方法について協議を行った。さらに、表彰規程や選考委員会運営規程に則り、公正かつ厳格なる審査を旨とすることを確認した。募集要領の賞の対象および審査対象に則しているかについて1件ずつ確認した結果、すべての候補業績を審査の対象とすることを確認した。なお、作品部門にも類似の応募があった候補業績2件については委員の間で意見交換を行い、2件とも業績部門での審査対象とすることを合議により決定した。また、他部会から当部会に対し候補業績の審査依頼がなされていない旨の報告があり、これにより本年の候補業績が18件であることを確認した。

続いて、公明正大な審査を行うために、18件の候補業績に委員と関係の深い候補業績があるかどうか確認した結果、5名の委員から申告があったため、「日本建築学会賞の審査にあたっての申し合わせ」に従い、その審査の一切に関与しないことを申し合わせた。以上の事項を踏まえながら、これら候補業績18件に対して第2回部会までに、委員全員がすべての候補業績に対して候補推薦書・候補業績説明書・添付資料などの資料を慎重に検討し、評価を行うこととした。

2021年11月4日に第2回部会を開催し、各委員の評価結果をもとに、候補業績18件の詳細な検討と評価・審査を行った。その結果、4件の候補業績については現地審査、4件の候補業績についてはヒアリング審査を行うこととした。残りの10件の候補業績は賞候補から見送ることとした。この決定に基づき、2021年11月28日から2022年1月9日までの間に現地審査・ヒアリング審査による業績確認などの審査を実施した。

2022年1月18日に第3回部会を開催し、現地審査あるいはヒアリング審査を実施した8件の候補業績について、全委員の評価をもとに、1候補業績ごとに慎重な審議を行った。他部門と異なり、継続的な活動による業績成果の到達程度、今後の発展性等を考慮に入れ、学術・技術・芸術等の向上への貢献度を総合的に審査し、全委員一致で3件を授賞候補業績とすることとした。

2022年2月7日に第4回部会を開催し、授賞候補業績3件の業績名と受賞者を確定するとともに、推薦理由書の文案を検討した。以上の経過により2022年業績部会としては、3件の業績を推薦することとした。